

令和3年度決算に係る

定期監査資料

令和4年8月

園芸試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	職員の定員、現員調べ	1頁
4	役付職員の調べ	1頁
5	主な事業に関する調べ	2頁
6	現金の取扱状況	5頁
7	財産に関する調べ	6頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
8	財産の貸付及び使用許可調べ	9頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
9	借受不動産明細調べ	10頁
10	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	11頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
11	寄附物件の受納状況調べ	11頁
12	備品の処分状況調べ	12頁
13	事業別予算執行状況調べ	13頁
14	農業機械の管理状況	13頁
15	生産物(品)に関する調べ	15頁
16	試験研究調査事業別実施状況調べ	17頁
○	意見、要望等	28頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1)指摘事項 該当なし
- (2)監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況
該当なし

3 職員の定員、現員調べ (令和4年8月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	3.4.1 現在	当該年度	3.4.1 現在	当該年度	3.4.1 現在	当該年度	3.4.1 現在	
定員	1	1	33	33	8	9	42	43	
現員	1	1	35	34	8	9	44	44	病害虫防除所兼務7名
過不足(△)	0	0	2	1	0	0	2	1	病気休職による加配1名 定数外(予備定数)1名
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
会計年度任用職員	2	2	0	0	50	50	52	52	農業技術員50名 事務員 2名

4 役付職員の調べ (令和4年8月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
場長	八田 辰也	0年	4月	(兼)病害虫防除所 次長
次長	福本 由美	1年	4月	
課長補佐	田中 瑞男	0年	4月	出納員
果樹研究室長	井戸 亮史	0年	4月	
野菜研究室長	白岩 裕隆	2年	4月	
花き研究室長	遠藤 英	1年	4月	
環境研究室長	米村 善栄	1年	4月	(兼)病害虫防除所 課長補佐
砂丘地農業研究センター所長	久重 祐彦	0年	4月	
弓浜砂丘地分場長	井上 浩	1年	4月	
河原試験地長	石河 利彦	1年	4月	
日南試験地長	小谷 和宏	3年	4月	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
産地ニーズに応える特色ある鳥取型ブドウ栽培技術の確立	1,610			1,610
将来ビジョン	(4)産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
令和新時代創生戦略	02 飢餓をゼロに			
政策目標				
(概要)		試験箇所：砂丘地農業研究センター		
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>本県のブドウ栽培は県中部の北条砂丘地帯等を主産地として「デラウェア」、「ピオーネ」等を中心に、近年は消費者の嗜好性が高い「シャインマスカット」を生産している。しかし、生産者の高齢化や経営形態の変化等により、作業の省力化や低コスト栽培法の確立が急務である。加えて、消費者ニーズに適合した品種の導入も求められている。</p>				
(イ) 事業の実施状況				
<p>① 消費者の嗜好を考慮した次世代を担うブドウ新品種を検索。</p> <p>② 管理作業の省力化を図りつつ、高品質な果実生産が可能な栽培技術の確立。</p> <p>③ 施設の更新や新設時、比較的取り組みやすい野菜用の鳥取県型低コスト単棟ハウスでのブドウ栽培の適用性の検討。</p>				
イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<p>① 「シャインマスカット」に続く新品種を着果したものから順次果実品質調査を行い、有望性を検討した。</p> <p>② 成木に達した「シャインマスカット」、「ピオーネ」の台木の違いによる収量特性の評価に取り組んだ。</p> <p>③ 低コスト単棟ハウスに植え付けた「シャインマスカット」が成木に達し、樹形別の収量特性の評価に取り組んだ。</p>				
ウ 成果及び効果				
<p>① 成木に達した4品種（「マスカ・サーティーン」「マスカットノワール」「ヌーベルローズ」「コトピー」）について特性を調査した結果、「マスカ・サーティーン」は盆前に収穫可能で、房重はシャインマスカットの404gに対して600gと重く有望であった。</p> <p>② 砂丘畑において台木の違いが「シャインマスカット」、「ピオーネ」の果実品質に及ぼす影響はなかった。</p> <p>③ 5月～7月の高温による果房や葉が焼ける障害が発生したため、果実調査は実施できなかった。そのため、野菜型低コストハウスをそのままブドウ栽培に利用することは困難で、高温対策が必要と考えられた。</p>				
エ 課題（R4年度の主な試験内容）				
<p>① 「マスカ・サーティーン」については引き続き、本県での適応性を評価し、収穫期の前進化等を検討する。また、有望と考えられる数品種を植え付け、育成を行う。</p> <p>② 「シャインマスカット」、「ピオーネ」等の主力品種に対して、反射マルチ、LED補光等による果実品質向上効果について検討を行う。</p> <p>③ 野菜用の低コスト単棟ハウスをブドウ栽培で用いる場合の換気方法を検討するとともに、最適な樹形を明らかにする。</p>				

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財 源 内 訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
白ネギを核とする弓浜砂丘地の野菜栽培技術の確立	1,600			1,600
将来ビジョン	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
令和新時代創生戦略	02 飢餓をゼロに			
政策目標				
(概要)		試験箇所：弓浜砂丘地分場		
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<ul style="list-style-type: none"> ① 近年、県西部の弓浜砂丘地域を中心に白ネギ産地としての存亡に係わるような病害である「ネギ黒腐菌核病」の発生が見られており、早急に防除方法を確立する。 ② 白ネギの周年出荷体系強化のため、時期別適品種の選定および現地で問題となっている夏場の雑草の除草技術を確立する。 ③ 特有の砂質土壌を活用したニンジン、サツマイモなどの品種選定や栽培技術を確立する。 				
(イ) 事業の実施状況				
<ul style="list-style-type: none"> ① 現地のネギ黒腐菌核病発生圃場において、夏どり作型で「パレード20フロアブル」の薬剤処理時期について検討した。 ② 各時期別の適品種の選定を行った。白ネギ栽培で雑草繁茂が問題となる梅雨明け後から8月末までの間、除草剤を混用処理し、除草効果を比較した。 ③ ニンジンの初夏どり、年内どり作型における品種比較を行った。サツマイモの新規導入品種「べにはるか」について、連作期間が収量に及ぼす影響を検討した。 				
イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<ul style="list-style-type: none"> ① 前年まで、被害が大きい春どり・秋冬どり作型でネギ黒腐菌核病の防除試験を行ってきたが、周年出荷体系における防除技術を確立するため、夏どり作型で防除試験を検討した。 				
ウ 成果及び効果				
<ul style="list-style-type: none"> ① 夏どり作型では、「パレード20フロアブル」を定植時に灌注するか、3月上旬に1回散布することで、本病の防除が可能であった。ネギ黒腐菌核病の過去の試験と成果をまとめた「防除マニュアル」を関係機関と作成し、ネギ生産者全戸へ配布した。その結果、本病の被害発生は減少してきている。 ② 春どり作型で「陽春の宴」は晩抽性が強く、9～10月どり作型で「大河の轟き」の残存率が高く、有望品種だと考えられた。 梅雨明け後に、「ナブ乳剤」、「ロロックス」、「トレファノサイド乳剤」を混用散布、雑草が繁茂している場合は「ナブ乳剤」に代えてグリホサート系除草剤を混用することで、除草効果が優れた(参考となる成果)。 ③ ニンジンの初夏どり作型において「紅みのり」、年内どり作型において「アヤジェンヌ」が収量品質に優れた。サツマイモ品種「べにはるか」は、他品種に比べ連作3年目まで土壌病害や線虫の被害が少なく、連作に対する耐性がみられた。 				
エ 課題				
<ul style="list-style-type: none"> ① 集中豪雨や夏季の高温に対処する栽培技術の確立 ② 継続的な優良品種の選定と品種に合致した栽培技術の確立 				

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳																					
		国庫支出金	起債	その他	一般財源																		
園芸作物における病害虫の防除対策	3,824	268			3,556																		
将来ビジョン	-																						
令和新时代創生戦略	大項目	中項目	小項目																				
	SDGsゴール	-																					
政策項目	園芸品目の高品質・低コスト・安定生産技術の開発																						
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>県内園芸作物の生産地ではナシの黒星病、野菜のアザミウマ類、ブロッコリーの黒すす病等の難防除病害虫が増加していることから生産が不安定となっており、これらの難防除病害虫の防除対策を確立し、園芸産地の維持を図る。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>【令和3年度の各事業実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>各事業の取組内容</th> <th>成果及び効果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① ナシ黒星病に対し、亜リン酸資材を加用した防除体系による発病抑制効果の検討</td> <td>亜リン酸資材を4月下旬～5月の防除体系に3回以上連続加用することで、葉や新梢におけるナシ黒星病の発生量が軽減でき、栽培暦に採用された。</td> <td>果実における発病抑制効果の高い薬剤を検討する。</td> </tr> <tr> <td>② ナシで問題となる微小害虫種に対する休眠期防除の検討</td> <td>クワコナカイガラムシ、ニセナシサビダニの休眠期防除には、3種または2種の混用散布が効果的であった。</td> <td>ナシ生育期間中のハダニ類、シクイムシ類の防除対策を検討する。</td> </tr> <tr> <td>③ ブロッコリー黒すす病に対し、効果の高い防除体系の確立</td> <td>パレード20フロアブルの定植時セルトレイ灌注処理または定植1か月後のパレード20フロアブルの散布、出蕾前のシグナムWDGを散布した防除体系が葉の発病を最も抑制した。</td> <td>発病抑制効果の高い防除体系について年次間差の確認とデータ蓄積が必要である。</td> </tr> <tr> <td>④ ナガイモ腐敗症状の対策技術の確立</td> <td>クロールピクリンによる土壌消毒と定植時のユニフォーム粒剤を処理することにより、ナガイモ褐変症発生軽減効果が確認された。</td> <td>各処理の年次間差の確認のため、継続して検討する。</td> </tr> <tr> <td>⑤ 令和3年度に県中部で激発したスイカうどんこ病に対する防除薬剤の検定</td> <td>スイカうどんこ病に対する防除効果の高い薬剤を3～4種類選定し、産地の指導資料に活用されている。</td> <td>次年度、現地の発生状況を見ながら、発生状況と防除対策について指導情報を提供する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>産地の未来を見据えた取組として、野菜作（ブロッコリー、白ネギ）におけるドローン防除の効果を検証に取り組んでいる。</p>						各事業の取組内容	成果及び効果	課題	① ナシ黒星病に対し、亜リン酸資材を加用した防除体系による発病抑制効果の検討	亜リン酸資材を4月下旬～5月の防除体系に3回以上連続加用することで、葉や新梢におけるナシ黒星病の発生量が軽減でき、栽培暦に採用された。	果実における発病抑制効果の高い薬剤を検討する。	② ナシで問題となる微小害虫種に対する休眠期防除の検討	クワコナカイガラムシ、ニセナシサビダニの休眠期防除には、3種または2種の混用散布が効果的であった。	ナシ生育期間中のハダニ類、シクイムシ類の防除対策を検討する。	③ ブロッコリー黒すす病に対し、効果の高い防除体系の確立	パレード20フロアブルの定植時セルトレイ灌注処理または定植1か月後のパレード20フロアブルの散布、出蕾前のシグナムWDGを散布した防除体系が葉の発病を最も抑制した。	発病抑制効果の高い防除体系について年次間差の確認とデータ蓄積が必要である。	④ ナガイモ腐敗症状の対策技術の確立	クロールピクリンによる土壌消毒と定植時のユニフォーム粒剤を処理することにより、ナガイモ褐変症発生軽減効果が確認された。	各処理の年次間差の確認のため、継続して検討する。	⑤ 令和3年度に県中部で激発したスイカうどんこ病に対する防除薬剤の検定	スイカうどんこ病に対する防除効果の高い薬剤を3～4種類選定し、産地の指導資料に活用されている。	次年度、現地の発生状況を見ながら、発生状況と防除対策について指導情報を提供する。
各事業の取組内容	成果及び効果	課題																					
① ナシ黒星病に対し、亜リン酸資材を加用した防除体系による発病抑制効果の検討	亜リン酸資材を4月下旬～5月の防除体系に3回以上連続加用することで、葉や新梢におけるナシ黒星病の発生量が軽減でき、栽培暦に採用された。	果実における発病抑制効果の高い薬剤を検討する。																					
② ナシで問題となる微小害虫種に対する休眠期防除の検討	クワコナカイガラムシ、ニセナシサビダニの休眠期防除には、3種または2種の混用散布が効果的であった。	ナシ生育期間中のハダニ類、シクイムシ類の防除対策を検討する。																					
③ ブロッコリー黒すす病に対し、効果の高い防除体系の確立	パレード20フロアブルの定植時セルトレイ灌注処理または定植1か月後のパレード20フロアブルの散布、出蕾前のシグナムWDGを散布した防除体系が葉の発病を最も抑制した。	発病抑制効果の高い防除体系について年次間差の確認とデータ蓄積が必要である。																					
④ ナガイモ腐敗症状の対策技術の確立	クロールピクリンによる土壌消毒と定植時のユニフォーム粒剤を処理することにより、ナガイモ褐変症発生軽減効果が確認された。	各処理の年次間差の確認のため、継続して検討する。																					
⑤ 令和3年度に県中部で激発したスイカうどんこ病に対する防除薬剤の検定	スイカうどんこ病に対する防除効果の高い薬剤を3～4種類選定し、産地の指導資料に活用されている。	次年度、現地の発生状況を見ながら、発生状況と防除対策について指導情報を提供する。																					

6 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

(令和3年12月31日現在)

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備考
生産物売払収入	82,000	178	生産品販売代金
合計	82,000	178	

イ つり銭の状況

(令和3年12月31日現在)

つり銭の有無	有	つり銭の額(円)	20,000
--------	---	----------	--------

7 財産に関する調べ
 (1)公有財産
 ア 土地

(令和3年12月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		増減別	本年度異動状況						差引		備考	
			面積(m ²)	価額(円)		異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)		価額(円)
行政財産	(本場) 敷地・畑・道路	(北栄町由良宿字上ノヲノヲ2048外)	204,538.91	181,259,013	増加			R				204,538.91	181,259,013		
			減少					R							
	(砂丘地農業研究センター) 敷地・道路	(北栄条町田井字沖浜527外)	9,881.00	不明	増加			R				9,881.00	不明		
			減少					R							
	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883外)	34,465.72	不明	増加			R							・用途廃止に より普通財産 へ ・森林づくり推 進課へ引継
			減少					R3.12.20 R3.12.23	△8,320.00 △1,399.00	用途廃止 引継			24,746.72	不明	
(弓浜砂丘地分場) 畑・宅地	(境港市大字中海干拓地15外)	29,018.52	61,040,000	増加			R					29,018.52	61,040,000		
		減少					R								
(河原試験地) 敷地・道路	(鳥取市河原町大字佐貫字丸橋527)	1,545.11	不明	増加			R							不明	
		減少					R					1,545.11	不明		
小計			279,449.26	—								269,730.26	—		
普通財産	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883-37外)	3,001.32	不明	増加		8,320.00	R3.12.20		用途廃止					・行政財産か ら ・森林づくり推 進課へ引継
			減少				△8,320.00	R3.12.23	引継			3,001.32	不明		
小計			3,001.32	—								3,001.32	—		
合計			282,450.58	—								272,731.58	—		

イ 建物

(令和3年12月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考	
			面積(㎡)	価額(円)	増減別	異動日	面積(㎡)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(㎡)	価額(円)		
行政財産	(本場)	(北栄町由良宿)	5,469.84	416,831,142	増加	H					H	5,469.84	416,831,142	
	機械格納庫外				減少	H					H			
	(西園ほ場)	(北栄町西園)	252.00	不明	増加	H					H	252.00	不明	
	管理器材庫外				減少	H					H			
	(倉吉ほ場)	(倉吉市大谷茶屋)	2,078.49	102,208,799	増加	H					H	2,078.49	102,208,799	
	本館外				減少	H					H			
	(弓浜砂丘地分場)	(境港市中海干拓地)	849.47	222,110,000	増加	H					H	849.47	222,110,000	
	本館外				減少	H					H			
	(河原試験地)	鳥取市河原町佐貫	413.37	28,027,487	増加	H					H	413.37	28,027,487	
	本館外				減少	H					H			
	(砂丘地農業研究センター)	(北栄町田井)	436.79	65,930,550	増加	H					H	436.79	65,930,550	
	本館外				減少	H					H			
	(日南試験地)	(日南町阿毘縁)	404.12	41,667,915	増加	H					H	404.12	41,667,915	
	本館外				減少	H					H			
合計			9,904.08	—								9,904.08	—	

ウ 山林 該当なし

エ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機) 該当なし

オ 物権 該当なし

カ 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等) 該当なし

キ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況 該当なし

8 財産の貸付及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地

(令和3年12月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先住所氏名	備考
							単価	本年度の貸付(使用)料		
行政財産								96,420		
計								0		
普通財産								590		
計								97,010		
合計										

イ 建物
該当なし

(2) 物品
該当なし

9 借受不動産明細調べ

区分	種別	借受(使用)目的	所在地	数量又は面積	契約書の有無	契約の状況		借受先		備考
						借期	借受間	借料(円)	住所名	
						単価	本年度の借料	氏名		
(河原試験地)	山林・畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字丸橋564	7,608.00 ㎡	有	月額・年額 無料	無料	鳥取市		
土地	畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字狭間1827-1外	12,588.39	有	月額・年額 無料	無料	鳥取市		
土地	田	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字岡崎122-2外	3,305.00	有	丹額・年額 26,440	26,440	「個人」		
土地	畑	河原試験地 試験駐車場 用地	鳥取市河原町佐貫字園橋532	451.90	有	丹額・年額 21,691	21,691	「個人」		
(本場)	山林	排水施設用地	東伯郡北栄町由良宿字上ノノリ2040-3外	146.00	有	丹額・年額 3,285	3,285	「個人」		
(日南試験地)	畑・田	日南試験地 用地	日野郡日南町阿部緑字ヒヤケ田1201外	17,157.61	有	月額・年額 無料	無料	日南町		
合計				41,256.90			51,416			

10 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	本場 (東伯郡北柴町由良宿2048)	12.5	1,000
	砂丘地農業研究センター (東伯郡北柴町井529)	12.5	1,000
	弓浜砂丘地分場 (境港市中海千拓地27)	12.5	1,000
	河原試験地 (鳥取市河原町佐貫527)	12.5	1,000
	日南試験地 (日野郡日南町阿毘緑1203-1)	12.5	1,000
普通財産			

(2) 減免の考え方

河原試験地以外は減免

(減免理由)

勤務地が地理的に不便な場所にあり、最寄駅・バス停から距離が遠く、公共交通機関を利用した場合、通常の退庁時間においての退庁が困難となる。
また、時間外勤務を要する場合、公共交通機関では対応できないため。

(3) 使用料の見直し

令和元年10月1日実施

11 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

12 備品の処分状況調べ

(令和3年12月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	(保管換年月日) 取得年月日	不用決定年月日	処 分				備 考
			売払 棄却 の別	売払方法・ 棄却理由	処分 年月日	売払額・ 処分費用	
多機能型分 析天秤	H8.5.8	R3.10.13	棄却	高精度分析天秤更新に伴 い処分	R3.10.18	円 0	
白ネギ定植機	H9.10.2	R3.12.8	棄却	修理不可による使用不能	R3.12.14	0	
土壌消毒機	H10.1.20	R3.12.8	棄却	修理不可による使用不能	R3.12.14	0	
ナシハウス加 温機	H10.1.30	R3.12.16	棄却	修理不可による使用不能			
動力運搬車	H6.4.20	R3.12.16	棄却	修理不可による使用不能			
マニアスプ レッダー	S54.9.28	R3.12.16	棄却	修理不可による使用不能			
動力運搬車	H4.6.25	R3.12.20	棄却	修理不可による使用不能			
合 計						0	

14 農業機械の管理状況

(令和3年12月31日現在)

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	修理費等円	左の主な内容	備考
(本場)							
動力運搬車	ヤンマー FG-182SD	H6.4.20	生産物運搬	0			廃棄処分済 R4.1.12
"	チクスイ ES-672MCDP	H22.6.18	"	117	38,478	パンク修理 2,420 タイヤ交換 20,680 走行不良修理、Vベルト交換 15,378	
"	チクスイキャニコム J-80DP	H26.6.4	"	67	2,200	前輪タイヤパンク修理 2,200	
"	チクスイ J-80-DP	H12.5.9	"	70	54,087	走行ベルト、バッテリー交換、調整 19,778 燃料漏れの修繕 9,009 セルモーター交換修理 25,300	
"	カワシマ RF-4WD-DV	H15.6.18	"	98	50,600	セルモーター交換修理 25,300	
"	キャニコム下町小町シオン J70YACDPH	R.2.7.2	"	97	0		
"	カワシマ RX4WD-A ACK	H28.5.23	"	43	7,997	ワイヤー調整 7,997	
"	カワシマ AC19D-4WD-SE	H24.8.9	"	39	0		
トラクター	ヤンマー F180DXUK	H4.8.20	耕耘ローダー・除雪	4	0		
"	ヤンマー AF-30ML	H6.1.21	"	39	27,687	フロントローダ油漏れ修理 22,297 パンク修理 5,390	
"	クボタ SL54HCMANP	H28.7.14	"	41			
"	ヤンマー 18PS AF218VPVKS4M	H14.6.10	"	13	3,410	バッテリーの交換 3,410	
"	ヤンマー 低床 RS-300FKVU	H14.6.10	"	102	0		
"	クボタ FT300 FQMAEQR5	H30.11.13	"	103	5,390	前輪右タイヤパンク修理 5,390	
"	ヤンマー EF220VUKS5ME	H16.6.24	耕耘・畝立 除雪	200	31,900	フロントタイヤ交換 31,900	野花
スピードスプレー	昭信 3S-FSC1061	H25.6.11	薬散	25	0		
"	ヤンマー YAS1000DX	H7.7.31	"	34	0		
"	昭信 3S-FSC615	H15.4.21	"	34	0		
管理機	クボタ(土壌消毒機付) TI-55 NO. 1	H4.9.4	薬剤土壌灌注	5	0		
ネギ用管理機	クボタ TA800-SCJV	H23.8.26	耕耘・畝立	17	23,320	Vプーリー、Vベルト交換 23,320	
管理機 (高畝整形機)	三菱マヒンドラ農機(株) MM158ASP	H30.12.27	耕耘・畝立	6	0		
草刈りバインダー	クボタ RJ55-TK	H17.7.29	草刈結束	0	0		
高所作業車	共立 KCG-3500SH/T	H5.5.17	樹園地刈込	19	0		
"	共立 KCG-3500H	H17.6.9	"	24	0		
乗用草刈機	オーレック RM953	R2.7.2	"	26	0		
"	アグリップ RM-80JD	H11.2.16	"	0	0		
"	アテックス刈馬王 R-950HA	H19.7.4	"	36	14,719	パンク修理 3,080 スクリーン、ボルト、スペーサ修理 11,639	
"	フジイ MB1021 X1	H23.6.9	"	37	13,726	ステアリング不良修理、走行モーターファン交換修理 13,726	
芝用スイーパー	カワシマ LS805D	H14.4.25	芝の集草	24	32,065	点検及びVベルトの交換 32,065	
芝刈り機	パロネスLM81	H15.7.31	芝刈り	8			
除雪機	ワドー SS138UH	H15.12.16	除雪	2			

品名	形式 及び 規 格	取 得 年 月 日	用 途	稼 働 日 数 日	修理費等 円	左の主な内容 円	備 考
(砂丘地農業研究センター)							
トラクター	ヤンマー EF326XUQKC5	H15.9.29	圃場管理	28	154,099	左シリンダーオイル漏れほか修理 39,743 チェーンケース、油圧ホースオイル漏れ 114,356	
動力運搬車	テクスイ ELL801	H16.6.8	運搬	61	99,000	荷台鉄板修繕 99,000	
〃	ヤンマー CG-146D	H6.4.20	〃	7	0		
動力噴霧器	アリミツ ATC-433M	H20.12.3	薬 散	24	0		
動力噴霧器	丸山 自走噴霧 MSV415L-1 P/N358446	R2.8.6	薬 散	53	0		
チップシュレッダ	共立 P-1100C	H17.8.4	枝葉裁断	4	0		
管理機	クボタ クローラー式 TA800-SCJV	H19.9.26	根切り 堀上	6	8,690	クローラーのチェーン交換 8,690	
(弓浜砂丘地分場)							
トラクター	クボタ KL24RFQMANP	H24.9.19	耕耘・畝立 除雪、残渣処理	84	0		
〃	クボタ GB16BMARF1	H9.10.15	耕耘・畝立	19	0		
ネギ定植機	みのる OP2100	H9.10.15	定 植	0	0		R3.12処分
畝立機 管理機	イセキ KC750F02	S58.5.20	耕耘・畝立 土壌消毒	0	0		
ネギ管理機	アグリップ NR605N	H19.6.1	土寄せ	45	8,800	ゼンリン溶接 8,800	
〃	クボタ FTN7-Y	H26.11.28	土寄せ	52	0		
土 壌 消 毒 機	有光 SD-6V	H25.12.16	土壌消毒	6	0		
動力運搬車	ヤンマー クローラー CG162	H19.6.6	運搬・薬散	30	0		
動力運搬車	カワシマ ECZ1275-SEV	R2.2.6	運搬・薬散	48	0		
(河原試験地)							
トラクター	クボタ ZL2602DTMCSP	S57.6.11	耕耘	0	0		
動力運搬車	テクスイ ELL80IMPW	H31.3.11	生産物運搬・ 資材運搬	133	0		
スピードスプレイヤー	丸山 SSA-a601	H10.5.28	薬 散	12	62,568	エキゾーストパイプマトメ 62,568	
乗用草刈機	アグリップ RM85B	H12.5.2	草 刈	0	0		
〃	フジイ MF915X	H24.6.18	〃	32	46,541	ミッション着脱、分解修理、ドライブ軸交換等 39,721 タイヤバンク修理 6,820	
〃	オーレック RM951	H28.5.25	〃	16	170,973	ベアリングほか 5,346 Vベルト 10,428 セーフティーカバー交換一式 155,199	
自走草刈機	スバイダーモア	H29.2.27	〃	20	59,323	上下左右ワイヤー 5,280 ドライブチェーンケースASY緑 14,322 ミッション着脱、分解修理、ドライブ軸交換等 39,721	
耕 耘 機	ヤンマー YA-70DCA	H7.8.31	耕 耘	0	0		
(日南試験地)							
トラクター	クボタ A-13PMXR1	H4.8.7	耕耘・畝立 薬 散	16	0		
〃	ヤンマー 21PS AF322	H14.5.31	〃	74	0		
管理機	クボタ TI-55SKEVI	H3.5.15	耕耘・畝立	3	0		
〃	クボタ T-80	H7.9.21	〃	11	0		
〃	クボタ FTN-7Y	H22.7.6	溝きり・土寄せ	8	0		
動力三輪車	カワシマ SC1520DBV-SE	H6.7.4	運 搬	137	0		
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	H15.6.20	資材運搬	120			生工研より 配置換え
除 雪 機	フジイ SD1124DK-z	H30.10.29	除 雪	4	0		
除 雪 機	ワドー SMX1392-N	H25.12.13	除 雪	0	0		生工研より 配置換え 故障中
動力噴霧器	丸山 MS415CA-1	H25.12.13	薬 散	34	0		
計					915,573		

生産部門	品名種類	作付面積 ㎡	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越	生産数量		場内		処分数量				分類	差引	備考		
					生産 購入 kg	計 kg	使用 kg	売却		目的外使用		廃棄 kg				計	
								数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円					数量 kg	金額 円
野菜研究室	スイカ	4,000.0	18,000.0	0.0	18,967.0	18,967.0	0.0	10,053.5	1,286.218	488.0	0.0	8,425.5	18,967.0	1,286.218	0.0		
	小玉スイカ	100.0	100.0	0.0	60.0	60.0	0.0	46.0	5,600	0.0	0.0	14.0	60.0	5,600	0.0		
	ミニトマト	20.0	150.0	0.0	167.7	167.7	0.0	144.4	72,200	0.0	0.0	23.3	167.7	72,200	0.0		
	中二トマト	1,000.0	2,200.0	0.0	2,177.0	2,177.0	0.0	802.4	379,400	0.0	0.0	1,374.6	2,177.0	379,400	0.0		
	白ネギ	2,000.0	2,000.0	0.0	1,910.0	1,910.0	0.0	1,370.0	122,800	7.0	0.0	533.0	1,910.0	122,800	0.0		
	イチゴ	600.0	1,000.0	0.0	406.4	406.4	0.0	326.1	222,800	0.0	0.0	80.3	406.4	222,800	0.0		
	イチゴ苗	187.2	850.0	0.0	339.0	339.0	0.0	339.0	135,600	0.0	0.0	0.0	339.0	135,600	0.0	単位:本	
	プロッコリー	1,000.0	1,000.0	0.0	894.0	894.0	0.0	544.7	108,900	0.0	0.0	349.3	894.0	108,900	0.0		
	キャベツ	300.0	750.0	0.0	850.0	850.0	0.0	480.0	27,600	55.0	0.0	335.0	850.0	27,600	0.0		
	チンゲンサイ	200.0	100.0	0.0	104.0	104.0	0.0	83.4	13,900	0.0	0.0	20.6	104.0	13,900	0.0		
小計	9,407.2	26,150.0	0.0	25,875.1	25,875.1	0.0	14,169.5	2,375,018	550.0	0.0	11,155.6	25,875.1	2,375,018	0.0			
果樹研究室	なつひめ	1,200.0	3,700.0	0.0	3,852.6	3,852.6	403.3	3,284.0	1,893,989	0.0	0.0	185.3	3,449.3	1,893,989	0.0		
	夏さやか	1,800.0	2,000.0	0.0	2,217.6	2,217.6	39.1	668.0	199,600	144.0	0.0	1,366.5	2,178.5	199,600	0.0		
	秋甘泉	1,200.0	3,000.0	0.0	2,458.3	2,458.3	283.4	1,802.0	1,024,126	97.0	0.0	275.9	2,174.9	1,024,126	0.0		
	新甘泉	2,700.0	9,000.0	0.0	6,876.0	6,876.0	438.8	5,566.0	3,910,655	0.0	0.0	871.2	6,437.2	3,910,655	0.0		
	二十世紀	6,500.0	16,250.0	0.0	13,531.7	13,531.7	200.9	12,063.0	6,668,667	10.0	0.0	1,257.8	13,330.8	6,668,667	0.0		
	あきづき	400.0	1,000.0	0.0	1,040.6	1,040.6	255.9	729.0	392,419	0.0	0.0	55.7	784.7	392,419	0.0		
	王秋	700.0	3,500.0	0.0	4,203.1	4,203.1	280.5	3,124.5	168,000	0.0	0.0	798.1	3,922.6	168,000	0.0		
	幸水	125.0	700.0	0.0	376.5	376.5	15.0	113.0	33,900	222.0	0.0	26.5	361.5	33,900	0.0		
	秋栄	125.0	200.0	0.0	344.0	344.0	113.4	127.0	38,100	19.0	0.0	84.6	230.6	38,100	0.0		
	その他ナシ	1,980.0	3,000.0	0.0	2,263.2	2,263.2	989.0	504.5	127,500	79.6	0.0	690.1	1,274.2	127,500	0.0	新興 香麗、甘太、青新水、豊水 他	
輝太郎	2,000.0	1,500.0	0.0	1,205.0	1,205.0	286.2	538.0	161,400	107.6	0.0	273.2	918.8	161,400	0.0			
西条	500.0	500.0	0.0	516.6	516.6	42.0	287.0	54,600	67.0	0.0	120.6	474.6	54,600	0.0			
富有	225.0	200.0	0.0	169.1	169.1	0.0	78.0	15,600	0.0	0.0	91.1	169.1	15,600	0.0			
その他カキ	500.0	100.0	0.0	69.5	69.5	0.0	39.0	7,800	0.0	0.0	30.5	69.5	7,800	0.0	新秋、太秋		
リンゴ	300.0	300.0	0.0	387.4	387.4	254.5	43.0	6,450	0.0	0.0	89.9	132.9	6,450	0.0			
かんきつ類	1,500.0	1,000.0	0.0	530.7	530.7	105.8	284.1	61,100	0.0	0.0	140.8	424.9	61,100	0.0			
ピワ	50.0	30.0	0.0	31.1	31.1	3.2	0.0	0	0	0.0	27.9	27.9	0	0.0			
小計	21,805.0	45,980.0	0.0	40,073.0	40,073.0	3,711.0	29,230.1	14,763,906	746.2	0.0	6,385.7	36,362.0	14,763,906	0.0			
花き研究室	アスター	50.0	500.0	0.0	150.0	150.0	0.0	96.0	4,800	0.0	0.0	54.0	150.0	4,800	0.0	単位:本	
	シネツボウユリ	400.0	4,000.0	0.0	3,870.0	3,870.0	0.0	2,416.0	161,780	0.0	0.0	1,454.0	3,870.0	161,780	0.0	単位:本	
	ストック	300.0	2,500.0	0.0	2,040.0	2,040.0	150.0	644.0	41,135	0.0	0.0	1,246.0	1,890.0	41,135	0.0	単位:本	
	トルコギキョウ	50.0	500.0	0.0	330.0	330.0	0.0	272.0	20,400	0.0	0.0	58.0	330.0	20,400	0.0	単位:本	
	その他ユリ	100.0	1,000.0	0.0	465.0	465.0	0.0	322.0	16,600	0.0	0.0	143.0	465.0	16,600	0.0	単位:本	
	花壇苗	50.0	500.0	0.0	260.0	260.0	0.0	210.0	11,600	0.0	0.0	48.0	260.0	11,600	0.0	単位:個	
	小計	950.0	9,000.0	0.0	7,115.0	7,115.0	150.0	3,962.0	256,315	0.0	0.0	3,003.0	6,965.0	256,315	0.0		
	環境研究室	アスパラガス	475.0	200.0	0.0	209.4	209.4	0.0	71.7	71,700	24.6	0.0	113.1	209.4	71,700	0.0	
		コマツナ	300.0	100.0	0.0	49.4	49.4	0.0	48.4	12,100	0.0	0.0	1.0	49.4	12,100	0.0	
		サツマイモ	180.0	200.0	0.0	157.6	157.6	0.0	108.0	21,600	0.0	0.0	49.6	157.6	21,600	0.0	
サトイモ		70.0	70.0	0.0	81.6	81.6	0.0	60.0	6,000	0.0	0.0	21.6	81.6	6,000	0.0		
スイカ		1,200.0	900.0	0.0	712.5	712.5	0.0	632.5	108,000	50.0	0.0	30.0	712.5	108,000	0.0		
トマト		16.0	20.0	0.0	21.3	21.3	0.0	0.0	0	16.8	0.0	4.5	21.3	0	0.0		
ナガイモ		1,600.0	1,200.0	0.0	910.2	910.2	0.0	218.0	34,572	0.0	0.0	692.2	910.2	34,572	0.0		
ナス		16.0	50.0	0.0	68.3	68.3	0.0	15.5	3,100	25.5	0.0	27.3	68.3	3,100	0.0		
ねばりっ娘		700.0	500.0	0.0	392.9	392.9	0.0	384.9	62,400	0.0	0.0	8.0	392.9	62,400	0.0		
ハクサイ		75.0	150.0	0.0	122.0	122.0	0.0	36.0	1,200	54.0	0.0	32.0	122.0	1,200	0.0		
ピーマン	16.0	50.0	0.0	70.8	70.8	0.0	6.3	1,050	48.0	0.0	16.5	70.8	1,050	0.0			
ミニトマト	600.0	600.0	0.0	521.9	521.9	0.0	17.6	8,800	215.0	0.0	289.3	521.9	8,800	0.0			
小計	5,248.0	4,040.0	0.0	3,317.9	3,317.9	0.0	1,598.9	330,522	433.9	0.0	1,285.1	3,317.9	330,522	0.0			

花御所	1,300.0	1,300.0	0.0	664.0	664.0	34.0	407.8	62,705	38.0	0.0	184.2	630.0	62,705	0.0
輝太郎	2,000.0	4,000.0	0.0	4,347.5	4,347.5	816.9	3,426.4	2,153,075	0.0	0.0	104.2	3,530.6	2,153,075	0.0
輝太郎穂木			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
河原試験地	2,200.0	2,600.0	0.0	2,027.1	2,027.1	6.0	1,959.4	754,255	0.0	0.0	61.7	2,021.1	754,255	0.0
西条	1,300.0	2,600.0	0.0	2,892.5	2,892.5	608.9	1,872.7	30,601	56.4	0.0	354.5	2,283.6	30,601	0.0
富有	4,200.0	1,000.0	0.0	573.7	573.7	120.7	350.0	87,900	16.0	0.0	87.0	453.0	87,900	0.0
その他カキ			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	357,654	0.0	0.0	0.0	0.0	357,654	0.0
カキ精算金			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3,446,190	110	0	792	8,918	3,446,190	0
小計	11,000.0	11,500.0	0	10,505	10,505	1,587	8,016	62,705	140	0	1,491.0	1,505.0	62,705	1,803.0
ナガイモ	450.0	1,200.0	2,065.0	1,822.5	3,887.5	579.5	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
ねばりっ娘	1,500.0	3,750.0	3,250.0	3,293.0	6,543.0	490.6	1,324.0	233,400	41.5	0.0	1,519.0	2,884.5	233,400	3,207.9
ねばりっ娘私金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
ねばりっ娘仮私金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
砂丘地農業	862.0	820.0	0.0	906.5	906.5	176.0	441.7	449,171	0.0	0.0	288.8	730.5	449,171	0.0
研究セン	1,200.0	2,300.0	0.0	2,239.5	2,239.5	994.5	0.0	0	0.0	0.0	1,275.0	1,275.0	0	0.0
ター	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	4.0	1,000	0.0	0.0	0.0	4.0	1,000	0.0
ラッキョウ	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	250	0.0	0.0	0.0	1.0	250	0.0
ラッキョウ(フリチャイバル)	0.0	0.0	0.0	6.0	6.0	0.0	6.0	1,500	0.0	0.0	0.0	6.0	1,500	0.0
ラッキョウ(フリチャイペンカ)	0.0	0.0	0.0	80.2	80.2	0.0	80.2	20,050	0.0	0.0	0.0	80.2	20,050	0.0
ラッキョウ(フリチャイビー)	0.0	0.0	0.0	8,352.7	13,667.7	2,170.6	1,856.9	705,371	55.5	0.0	4,573.8	6,486.2	705,371	0.0
ラッキョウ(種球)	4,012.0	8,070.0	5,315.0	8,352.7	13,667.7	2,170.6	1,856.9	705,371	55.5	0.0	4,573.8	6,486.2	705,371	0.0
小計	800.0	200.0	200.0	415.0	615.0	0.0	0.0	0	350.0	0.0	65.0	415.0	0	200.0
弓浜砂丘地	1,500.0	4,500.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
分場	6,000.0	15,000.0	0.0	1,881.0	1,881.0	0.0	795.0	319,501	0.0	0.0	1,086.0	1,881.0	319,501	0.0
白ネギ	1,500.0	6,000.0	0.0	5,600.0	5,600.0	0.0	2,800.0	42,000	0.0	0.0	2,800.0	5,600.0	42,000	0.0
白ネギ苗	8,450.0	25,700.0	200.0	7,896.0	8,096.0	0.0	3,595.0	361,501	350.0	0.0	3,951.0	7,896.0	361,501	200.0
小計	190.0	380.0	0.0	237.1	237.1	237.1	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
アスバラガス	980.0	7,840.0	0.0	7,508.0	7,508.0	153.0	3,496.0	1,264,950	0.0	0.0	3,859.0	7,355.0	1,264,950	0.0
トマト	120.0	2,500.0	0.0	2,088.0	2,088.0	2,088.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
トルコギキョウ	140.0	840.0	0.0	1,109.1	1,109.1	4.0	0.0	0	0.0	0.0	1,105.1	1,105.1	0	0.0
ピーマン	1,200.0	840.0	0.0	407.6	407.6	407.6	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
ブロッコリー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6,206	0.0	0.0	0.0	0.0	6,206	0.0
加工葱	1,800.0	4,320.0	0.0	2,914.0	2,914.0	760.0	1,320.0	494,500	0.0	0.0	834.0	2,154.0	494,500	0.0
白ネギ	4,430.0	16,720.0	0.0	14,263.8	14,263.8	3,649.7	4,816.0	1,765,656	0.0	0.0	5,798.1	10,614.1	1,765,656	0.0
小計	65,302.2	147,160.0	5,515.0	117,398.3	122,913.3	11,267.8	67,244.7	24,004,479	2,246.0	0.0	36,943.9	106,434.6	24,004,479	0.0
計(kg)														5,210.9
金額総計														24,004,479

16 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年12月31日現在)

事業名	(単)市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸新種の育成		担当室別	果樹研究室、河原試験地、砂丘地農業センター、野菜研究室、花き研究室、弓浜砂丘地分場
実施計画期間	平成28年度～令和5年度		(予算額) 支出済額	(8,204,000円) 1,921,646円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシ新品種の育成	果樹研究室	場内露地ほ場10a	・ナシ新品種、新系統の鳥取県における適応性を検討する。	(成果) ・植栽されている交雑実生群から早生3系統、中生1系統、晩生1系統を選抜した。これらのうち、晩生系統については令和4年度より現地試験を開始することとした。 ・選抜終了系統であるF4227-19は品種登録を行う候補として有望であったため、令和2年度より現地における栽培試験を開始した。 (課題) ・継続して調査を行い、果実品質の年次変動や生理障害の有無を確認する。 ・選抜終了個体については苗木を育成し、品種登録に向けた調査を実施する。 ・現地試験系統の果実品質調査
カキ新品種の育成	河原試験地	場内露地ほ場5a	・輝太郎に次ぐオンリーワン甘柿品種を育成する。	(成果) ・2016年度に交雑育種を行った133系統の高接ぎを行った。そのうち、2021年度に56系統が初結実し、果実調査を行った。 ・2019年度に交雑育種を行い、7系統の実生苗を確保した。 ・2020年度に交雑育種を行い、29系統の実生苗を確保した。 (課題) ・2016年度系統は、順次果実調査を行い、有望系統を選抜する。 ・2019年度系統は、7系統の穂木を採取して高接ぎをする。 ・2020年度系統は、実生苗を養成する。
スイカ新品種の育成と実用化	野菜研究室	場内ハウス5a	・黒点根腐病に強いスイカ台木の育成。	(成果) ・スイカつる割病抵抗性の高い系統の中から、慣行の台木品種「どんなもん台」よりも黒点根腐病に強い系統を選抜し、品種候補「共台園試2号」とした。 (課題) ・「共台園試2号」の現地評価試験 ・「共台園試2号」の品種登録出願
イチゴ新品種の育成と実用化		場内ハウス4.0a 現地農家3戸	・多収で食味の良いイチゴ育成のための、交雑実生による育成と選抜。 ・育成品種の栽培特性解明。	(成果) ・品種登録候補系統「CK1号」を選抜した。 ・「CK1号」の現地評価試験において有望と判定された。 (課題) ・有望系統を継続して交配、選抜する。 ・「CK1号」の特性解明と栽培方法の確立。
シバ優良系統の育成	花き研究室	場内露地ほ場3a	・葉枯病耐性・生育旺盛・揃いの良いコウライシバの育成。	(成果) ・地下部の生育が旺盛で株張りが早く、紅葉が非常に遅い系統を3系統選抜した。 ・この3系統は、耐病性が高く、植え付け5年経過しても発病が確認されていない。 (課題) ・継続調査、さらなる系統選抜。現地での特性調査。
実つき枝物の優良系統の育成		場内露地ほ場2a	・既存品種が皆無であることから、本県で確立した樹形管理に適した品種を育成する。	(成果) ・サルトリイバラの県内自生種の中から、棘が極めて少ない系統を選抜し、特性調査を実施中。 (課題) ・品種登録のための特性調査。

リンドウの新品種育成	花き研究室	花き研究室 ハウス10㎡ 露地ほ場2a 現地ほ場40㎡	極早生～盆咲き品種の 開発。	(成果) ・現地試作で評価が高かった極早生系統と同様の組合せによる交配系統の苗を、園試験内および現地に定植し、花色等の特性調査を行った。現地試験等の結果から生産者等の評価はますますであった。 ・新たな交配組合せの種子を採種し、育苗・定植をする予定。 (課題) ・新品種候補等の親系統の維持および種苗供給体制の確立。 ・新品種候補の切り花品質調査による選抜淘汰。
			日持ちの良い三倍体リン ドウの育成。	(成果) ・挿し木による三倍体の効果的な増殖方法が明らかになってきた。 ・現地試験において、生産者等の評価はますますであった。 (課題) ・三倍体の現地特性評価の継続実施。
ユリの新品種育成	花き研究室	花き研究室 ハウス:80㎡	小球開花性の新奇性の 高いユリ品種の育成。	(成果) ・小球開花性選抜系統‘鳥鱗1号’において、前年以前に抽台前歴があり、鱗片が大きい苗を定植することで、抽台率と採花率が高まった。 ・‘鳥鱗1号’は令和3年12月13日付けで品種登録された。 (課題) ・‘鳥鱗1号’の秋冬栽培における抽台率安定及び栽培技術の確立。
		花き研究室 ガラス温室20㎡ ハウス50㎡	秋冬作型に適するシン テツポウユリの開発。	(成果) ・既存品種である‘F1オーガスタ’と同等以上の採花率の系統(19H)を選抜することができた。その中から現地で拡大試験を実施する予定である。 (課題) ・輪数増加と系統内形質揃いの向上。
新しい青ブドウの選 抜	砂丘地農業 研究セン ター	無加温ハウス 32㎡ 棚トンネルハウ ス20㎡	・12g以上で糖度18度以 上の青ブドウの創出。	(成果) ・‘04HS-2’の果実特性について調査した。収穫適期は、無加温ハウスで8月上旬、露地で8月中旬頃と考えられた。房重は614g、糖度は22.3度、酸度は0.78%であった。 (課題) ・‘04HS-2’を原料にワイン醸造試験を実施し、加工適性を評価する。
ラッキョウ新品種の育 成		砂丘地農業研 究センター西園 ほ場133㎡、 現地ほ場7㎡	灰色かび病耐病性系統、 乾腐病耐病性系統の特 性調査を行う。	(成果) ・灰色かび病耐病性系統は、選抜した1系統について特性調査を行ったところ‘大栄1号’と同等の収量性を示した。 ・乾腐病耐病性系統のうち、北条砂丘地向けのT系統では‘T4’を最も有望として選抜した。福部向けの‘IF1’、‘T3’は‘在来’と同等の鱗茎重だったが、年次変動の少ない‘IF1’を有望として選抜した。 (課題) ・特性調査を継続し年次変動を確認する。
ナガイモ新系統の育 成		砂丘地農業研 究センター西園 ほ場128㎡、 現地ほ場320 ㎡、 本場培養実験 室	選抜系統‘1u61’の萌芽 性、収量性、品質につい て特性を評価する。また、 現地生産者ほ場における 特性評価を行う。	(成果) ・品種登録に向けた特性調査の結果、対照系統に比べて葉柄が長い、むかごがほとんどつかない、芋長が短い、芋重が軽い等により区別性が認められた。 ・過去4年間現地試験の結果、対照系統より芋長が短く芋重が軽かったことから、在来系統より小型(7割程度)の系統と考えられた。 ・これらの形質は地上部片付けや掘り取り作業の省力化というメリットにつながると期待される。 (課題) ・2年間の調査結果をまとめ、品種登録の申請を行う。 ・引き続き現地試験を行い、収量性等の年次変動を調査する。
白ネギ	弓浜砂丘地 分場	弓浜砂丘地分 場 露地ほ場 3a	・品質の高い坊主不知ネ ギの育成。	(成果) ・育成中の自殖5系統、交雑1系統について収量特性を調査した。 (課題) ・引き続き、収量特性を調査するとともに、収穫出荷時(5月)の葉鞘の丸い個体を選抜し、品質を高める。

事業名	(単)鳥取のナシ産地活性化を目指す栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室	
実施計画期間	令和元年度 ～ 令和5年度		(予算額) 支出済額	(6,353,000円) 3,410,920円	
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場 所	試験研究 調査の対 象・数量・ 範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1. 新品種を核としたナシ生産技術の確立					
(1) 'なつひめ'の環状剥皮後の癒合不良が樹体、果実品質に及ぼす影響の解明	本場果樹ほ場	'なつひめ' 12樹	生産現場では環状剥皮後に処理部分の癒合不良が見られており、このことが樹体や果実品質に及ぼす影響について不明である。そこで人為的に再生するカルスを除去し、樹体や果実品質に及ぼす影響について明らかにする。	(成果)再生するカルスを全除去すると翌年の樹勢が低下するが、約50%のカルス除去では当年の果実品質や翌年の樹勢に影響しないことが明らかになった。 (課題)試験としては終了する。環状剥皮による癒合不良の程度が樹勢や果実品質に及ぼす影響について、生産現場での取り組みに資するよう情報発信を行う。	
(2) '秋甘泉'の落果防止剤による成熟遅延の検証	本場果樹ほ場	'秋甘泉' 16樹	'秋甘泉'で使用される落果防止剤「ヒオモン水溶剤」は果実成熟を遅延させる可能性が指摘されているため、散布の有無および時期の違いが果実糖度に及ぼす影響について検証する。	(成果)ヒオモンの早期散布と、無処理および晚期散布との糖度差は年次変動が大きく、糖度に与える影響は判然としなかったが、満開日からヒオモン散布までの日数が少ない場合、果実糖度が低下する可能性が示唆された。 (課題)'秋甘泉'は生産現場で'新甘泉'との混植事例が多く、そうした園でヒオモンを使用する場合は早期散布の時期になる場合が多い。そのため、今回の成果である満開後日数と成熟遅延の可能性について情報発信し、生産現場での使用の際の判断材料にしよう。	
2. 新時代を拓く画期的栽培技術の確立					
(1)側枝基部への環状剥皮による新梢発生促進効果の検証	本場果樹ほ場	'新甘泉' 20樹	ナシの枝更新を安定的に進めるため、側枝基部への環状剥皮処理が新梢発生に及ぼす影響について、剥皮時期の違いや植調剤の処理による効果を検討する。	(成果)開花前に剥皮処理を行うことで側枝候補となる新梢が多く発生した。開花後の剥皮処理でも発芽部分に植調剤を処理することで、開花前と同等な形質の新梢が得られることが明らかとなった。 (課題)継続して効果を確認し、枝更新用の新梢発生を促進する技術として確立する。	
3. 気候変動への適応技術の確立					
(1)ナシの施肥量の検討	本場果樹ほ場	'おさゴールド' 14樹	ナシ樹の樹勢維持や果実生産に必要な施肥量を明らかにするため、施肥量の違いが果実品質や収量に与える影響について検討する。	(成果)慣行の施肥量に比べて半量あるいは無施肥で17年間継続して栽培試験を行った結果、果重と糖度、収量は施肥量を削減しても慣行と概ね変わらず、果色は施肥量が少ない方が高くなる傾向であることが明らかとなった。 (課題)試験期間が長くなり、一定の成果も見られたことから、各区の土壌分析を行った後に試験としては終了の方向。	

(令和3年12月31日現在)

事業名	(単)野菜主要品目の生産拡大と高品質生産技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成31年度 ～ 令和5年度		(予算額) 支出済額	(3,933,000円) 1,888,761円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
鳥取スイカの生産・消費拡大を目指す次世代栽培技術	本場	ハウス12a 露地20a	<ul style="list-style-type: none"> ・整枝方法の現地実証および普及 ・高温期における遮光技術 ・新ユウガオ台木の特性解明 ・空洞果抑制技術の開発 ・廃プラ削減のための、生分解マルチの検討 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整枝方法の改善として無つる引き栽培のマニュアルを作成し、現地に実証試験および栽培講習会を実施した。 ・交配後の遮光時期を検討し、交配35日後遮光が糖度低下が少ないことを明らかにし、7どりハウス栽培における遮光方法を確立した。 ・新ユウガオ台木「KTF-193」の特性を明らかにした。 ・品種「がぶりこ」において、摘果を遅らせることで空洞果発生を抑制できることを明らかにした。 ・スイカのトンネル栽培において生分解マルチの検討を行い、対照の農ボリと生育、収量が同等であり、実用上の問題がないことを明らかにした。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温期の着果安定 ・空洞果抑制技術の確立 ・新台木の特性評価 ・廃プラ削減に関する新技術の開発
イチゴ新品種のブランド化と産地強化に向けた革新技術の開発	本場	ハウス5a	<ul style="list-style-type: none"> ・「とっておき」栽培技術マニュアルの改定 ・品種候補「CK1号」の特性解明 	<ul style="list-style-type: none"> ・「とっておき」の栽培技術マニュアルを改訂し、農家へ配布した。 ・「CK1号」について、花芽分化特性、施肥量について明らかにした。 <p>・「とっておき」の栽培技術の周知及び栽培面積の拡大。</p>
黒ボク地域における野菜の生産拡大と高品質生産技術の確立	本場	ハウス5a 露地15a	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリーの作型別適品種の検討 ・第72回全日本野菜品種審査会ブロッコリー(夏まき年内どり) ・葉菜類の品種選定と栽培方法の継続検討 ・秋冬どり白ネギの適品種の検討 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月、10月、12月どり作型で有望とみられる品種を選定した。 ・第72回全日本野菜品種審査会ブロッコリーを実施し、審査結果を農家へ情報提供した。 ・コマツナとチンゲンサイの有望品種を選定した。 ・秋冬どり白ネギの有望品種を選定した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作型別のブロッコリー品種選定 ・ミニトマトのつやなし果(生理障害)の抑制方法の検討 ・夏秋どり白ネギ品種の選定 ・白ネギの除草技術
簡易・迅速土壌診断による野菜の適正施肥技術の確立	本場	露地6a	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易土壌診断技術の確立 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県の野菜栽培土壌において、窒素、リン酸、カリウムの簡易診断に用いる回帰式を明らかにした。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易診断法の実証試験およびマニュアル化

(令和3年12月31日現在)

事業名	(委)新農薬適用試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成10年度～		(予算額) 支出済額	(4,518,000円) 1,864,880円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果樹病害虫の防除薬剤の実用化	本場河原試験地	ほ場34a	果樹の新規薬剤の防除効果等を検討し、各果樹の防除暦を編成する。	(成果) ・ナシのハダニ、カイガラムシ、シンクイムシ類、ハマキムシ類などについて新規薬剤の効果が明らかとなった。実用性の高い薬剤は、県基準防除暦等に記載した。 (課題) ・農薬の再評価制度導入に対応した農薬適用拡大推進。
野菜・花き病害虫の防除薬剤の実用化	本場弓浜砂丘地分場	ほ場62a	野菜、花きの新規薬剤の防除効果等を検討し、有効薬剤の適用拡大を図る。	(成果) ・スイカの菌核病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、ネギの黒腐菌核病、さび病、ハモグリバエ類、ブロッコリーの黒すす病、ヨトウムシ、ナガイモの炭疽病、ハダニ類等に対する新規薬剤の効果が明らかになった。 (課題) ・本県特産農産物の生産上問題となる病害虫の更なる農薬適用拡大推進。

(令和3年12月31日現在)

事業名	(委)農業における花粉媒介昆虫等の積極的利活用技術の開発		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成30～令和3年度		(予算額) 支出済額	(1,093,000円) 1,022,871円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシの花粉媒介昆虫相の解明と送粉効率の高い昆虫の探索および評価	本場	ほ場70a	ナシ自然受粉樹の結実要因を明らかにする。 ナシの開花時期に多い昆虫種群を明らかにする。	(成果) ・ナシ園で訪花昆虫種の把握は、簡易見とり法が簡単であったが、見とり時間の条件設定が難しく、TP設置法が適していた。捕獲数は地点間で差があった。訪花及び捕獲昆虫の種類は主にハナアブ類、ハナバチ類、ハナバエ類であった。 (課題) ・年次、地域間差等の確認とデータ蓄積。

(令和3年12月31日現在)

事業名	(単)鳥取の花きとシバ生産を支える安定生産技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	令和元年度 ～ 令和5年度		(予算額) 支出済額	(4,520,000円) 1,891,964円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
【ストック】 ・開花調節技術の確立 ・施肥・灌水管理法の検討	本場	ハウス 3a	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な出荷を行うための開花予測や開花調節技術、品質保持技術を確立する。 ・品質向上のための施肥・かん水管理法を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花芽分化前または後に10日間程度強遮光を行うことでも開花を遅らせることができた。 ・発蕾以降にpF2.5程度の灌水を行うことで、FR照射下でも切り花のボリュームを維持することができた。 ・開花と温度に相関が高いことが分かり、無電照条件下における高精度の開花予測式が作成できた。 ・品質保持剤として「塩化ベンザルコニウム」を使用すると、品質保持効果が高く鑑賞日数を延長できた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電照条件下における精度の高い開花予測式の確立。 ・具体的な灌水や施肥量などの指標化。 ・他品種における効果的な品質保持剤と使用法の確立。
【シンテツポウユリ】 ・ハウス秋冬出荷作型における適品種の検討と品種特性の解明 ・露地盆出荷作型における追肥方法の検討	本場	ハウス 3a 露地 1a	<ul style="list-style-type: none"> ・秋冬出荷作型に適した品種を明らかにする。また、品種特性を明らかにし品種に合った栽培方法を検討する。 ・葉色もしくは茎径を基準にした適切な追肥時期を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋冬出荷作型に適した品種を選定した。選定した品種はこれまで行われていた定植前苗冷蔵と電照をしなくても採花率が高かった。 ・葉色を基準としてSPAD値が45以下になったタイミングで追肥することで収穫まで肥効を維持させることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選定品種は輪数が少ない特性があるため、栽培方法で改善できないか検討する。また、秋冬出荷作型に合った品種を引き続き検討する。 ・品種ごとに適切な追肥方法を検討する必要がある。
【アスター】 ・反応性の高い光源・光強度・照射時間の検討	本場	ハウス 1a	<ul style="list-style-type: none"> ・10～11月に無加温で開花するための光照射法を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋冬出荷栽培では、主要品種においてR(赤色)光や蛍光灯で草丈伸長効果が高く、無照射より40%以上草丈が伸長し、光源から2m程度までの距離で効果が高かった。 ・主要品種の栽培において、花芽分化後に消灯することで草丈を確保しながら開花を促進でき、作期分散が可能と分かった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電照の有効な時間帯について明らかにする必要がある。
【花壇苗】 ・EOD光照射+EOD加温(保温)+わい化剤を組み合わせた早春出荷法の確立	本場	ハウス2a	<ul style="list-style-type: none"> ・早春出荷における低コスト・高品質化栽培法を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花き類の主要品目において、夜間密閉するEOD保温、終日密閉する保温区において開花の促進が認められた。 ・また、EOD保温にEOD光照射とわい化剤を併用すると、生育を促進しながら草姿がコンパクトになる品目も明らかになってきた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より効果の高い保温方法の検討
【実付き枝物】 ・省力・高付加価値栽培技術の確立	本場	露地5a	<ul style="list-style-type: none"> ・サルトリイバラの簡易落葉法を確立し、省力で付加価値の高い栽培法を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サルトリイバラの10月上旬収穫(緑実状態)で乾燥、浸漬処理を組み合わせることで、最短収穫後4日に目に、8割以上の葉が落葉し、落果への影響が無いことが明らかとなり、簡易落葉法は熟期に左右されることなく使用できる技術であることが明らかとなった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに省力で高品質化可能なツルウメモドキの一字整枝や、地這い誘引等による樹形管理法を確立する必要がある。
【シバ】 ・オリジナル育成品種等の生産性向上をめざした栽培技術の確立	本場	露地35a	<ul style="list-style-type: none"> ・保湿資材や鎮圧を組み合わせた砂土栽培法を検証する。 ・「グリーンバードJ」沈み症(仮称)の発生原因と対策法を明らかにする。 ・シバ黄化症等の発生回避技術確立 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂土表層に粗殻くん炭を混和し、2週間に1回程度鎮圧することによって、ライゾームの形成が促進されることが明らかとなった。 ・断根・目土・鎮圧処理が「グリーンバードJ」の沈み症(仮称)に及ぼす影響を継続調査中。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果の年次変動を継続調査する必要がある。 ・「グリーンバードJ」における適正な施肥量や、灌水の影響、鎮圧等の影響を明らかにする必要がある。

事業名	(単)気候・風土に適応した砂丘ラッキョウ・ナガイモの安定生産技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
実施計画期間	平成31年度 ～ 令和5年度		(予算額) 支出済額	(5,179,000円) 867,568円	
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 ラッキョウにおける安定生産技術の確立					
(1) 収量に影響する重点施肥時期の解明	砂丘地農業研究センター西園ほ場・現地ほ場	鳥取市福部町ほ場 4.5a	被覆尿素肥料を9月中旬～10月下旬にかけて溶出する組合せとした基肥全量施用が生育、収量に及ぼす影響を慣行を対照として検討する。	(成果)基肥全量施用区と慣行区で差異はなく同等の収量が得られた。 (課題)継続調査する。	
(2) 現地優良系統の選抜と特性の解明 ア 早出し栽培に適した現地優良系統の特性調査		鳥取市福部町ほ場 0.05a	早期収穫時(5月中旬出荷想定)に乾物率が高く収量性が高い系統を選抜する。昨年までに3次選抜した5系統について収量特性を調査する。	(成果)収量性は系統間に差異はなく、早期出荷時期の乾物率にも差異はなかった。過去5年間の結果から、乾物率の高い'H2405'、早期収量性の高い'H2502'を早生系統の候補として選定した。 (課題)候補の2系統について継続調査を行う。	
(3) 中部地区における施肥の検討 ア 定植時期による施肥効果への影響		西園ほ場 1.2a	秋季重点施肥の効果が定植時期の早晚によってどのように差があるのか調査する。	(成果)定植時期の早晚に関わらず、秋季重点施肥区は慣行区と同等の収量が得られた。 (課題)平年と比較していずれの区も収量、乾物率が低かったため経年調査を行う。	
2 'ねばりっ娘'専用栽培技術の確立					
(1) 縦割れ症発生原因究明と低減技術の確立 イ 土壌pHの差異による影響	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・現地ほ場	西園ほ場 1.0a	土壌pHの違いが縦割れ症の発生、品質、収量に及ぼす影響を検討する。	(成果)単年度では縦割れ症の発生は土壌pH、施肥量の違いによる差はなかった。過去3か年の結果による縦割れ症の発生原因を検討すると、土壌pHが高いと発生が認められた。 (課題)対策試験の実施。	
(2) 出荷後に発生する腐敗の原因究明 ア つる切り時期が保存期間中の芋に及ぼす影響		西園ほ場 1.8a	異なるつる切り時期が収穫時の芋品質に及ぼす影響および冷蔵保存後の芋品質を経時的に調査する。	(成果)冷蔵保存後の乾物率はつる切り時期が遅いほど高く、冷蔵保存による乾物率への影響はなかった。 (課題)継続調査が必要。	
イ つる切り時期及び施肥方法が保存期間中の芋に及ぼす影響		西園ほ場 2.0a	異なるつる切り時期が冷蔵保存中の芋品質に及ぼす影響を調査する。加えて、追肥前倒処理の影響も検討する。	(成果)つる切り時期および施肥方法による芋の腐敗発生に差はなかった。褐変症の発生は、追肥前倒区では保存期間を通して発生が見られなかったが、慣行区は保存7か月後から多くなった。 (課題)継続調査が必要。	
(3) ムカゴ着生低減方法の検討 イ かん水間隔による影響		砂丘地農業研究センターほ場 0.4a	かん水間隔の違いが'ねばりっ娘'のムカゴの発生に及ぼす影響を検討する。	(成果)かん水間隔を慣行の2日に1回から4日に1回と長くしても、ムカゴ着生重、粒数とも差異はなく、着生低減効果が認められず、昨年と異なった。 (課題)継続調査が必要。	
(4) 油圧ショベル収穫による収量・品質経年調査		西園ほ場 1.0a	バックホウ収穫(植え列でない通路部分を収穫時に崩す)による芋の収量及び品質を経年調査	(成果)継続4年目においても、油圧ショベル収穫による芋の収量及び品質は慣行区と同等だった。 (課題)引き続き経年調査が必要。	
(5) 深耕・収穫作業が土壌物理性に及ぼす影響		西園ほ場 1.0a	深耕や収穫に使用する作業機の違いが土壌物理性に及ぼす影響について検討する(芋は未作付け)。	(成果)2月下旬に実施した深耕の効果は、深耕初年でも収穫期まで継続すると考えられた。また、バックホウ収穫により植付列部の土壌が締まる傾向があり、通路部の土壌硬度は大きく減少した。 (課題)引き続き経年調査が必要。	
3 ナガイモ黒陥没症対策技術の確立					
(1) 発生原因の究明と低減技術の確立 ア かん水による影響 イ 土壌改良資材による影響	砂丘地農業研究センター・現地ほ場	砂丘地農業研究センターほ場 1.7a	極端なかん水処理による土壌水分の違いが黒陥没症の発生に及ぼす影響について検討する。	(成果)黒陥没症の発生は慣行区が最も多く、かん水量を極端に増加させても発生は増加しなかった。 (課題)継続調査が必要。	
		東園現地ほ場 1.2a	土壌改良資材3年連続施用による黒陥没症発生低減効果を検討する。	(成果)土壌改良資材施用3年目におけ黒陥没症の発生が無施用区と比較して減少する傾向が見られ、さらに、褐変症の発生についても減少した。 (課題)継続調査が必要。	

ウ 土壌の差異による影響	東園現地ほ場0.4a	土壌pHの差が黒陥没症の発生に及ぼす影響について検討する。	(成果)黒陥没症の発生はpHによる差異はなかった。しかし、本年はpH処理1年目で表層処理のため土壌の下層までpHが上昇しておらず、処理が不十分だったと考えられた。 (課題)下層部までpHを上昇させたいうで再検討する。
エ 通路深耕による影響	東園現地ほ場0.4a	通路部分を定植前に深耕することが黒陥没症の発生に及ぼす影響を調査する。	(成果)通路深耕区は慣行区と比べて黒陥没症の発生が少なかったことから、通路深耕による土壌への影響は2年間続くと考えられた。 (課題)継続調査が必要。
オ 土壌消毒時期による影響	東園現地ほ場0.7a	土壌消毒の被覆ビニール除去から定植までの期間の違いによる出芽および黒陥没症、褐変症発生に及ぼす影響について検討する。	(成果)被覆ビニール除去から定植までの期間による出芽への影響は見られず、黒陥没症の発生は慣行区が多かったことから、処理期間の違いによる差は認められなかった。 (課題)終了
(2) 褐変症多発ほ場における褐変症発生低減技術の確立 ア 褐変症発生の品種・系統間差について	東園現地ほ場1.2a	過去に「腐れ」の多いほ場において、褐変症発生の品種・系統間差を検討する。	(成果)5系統を供試したところ、各系統間において褐変症発生に差はなかった。 (課題)継続調査が必要。
イ 褐変症発生頂芽が次年度作における褐変症発生に与える影響	東園現地ほ場1.2a	褐変症が発生した芋から採取した頂芽を、褐変症の発生状況が異なるほ場に定植した場合の褐変症発生に与える影響について検討する。	(成果)褐変症発生が見られる芋から採取した頂芽を「腐れ」が多いほ場に定植すると褐変症が激発したことから、同ほ場では褐変症が発生していない健全頂芽を定植する必要があると考えられた。 (課題)継続調査が必要。
ウ 土壌改良資材による影響	東園現地ほ場0.6a	土壌改良資材施用が褐変症発生に及ぼす影響について検討する。	(成果)土壌改良資材施用初年においては、褐変症発生における施用区と無施用区との差はなかった。 (課題)施用初年度であり反復間差も大きかったことから継続検討とする。
エ 通路深耕による影響	東園現地ほ場0.5a	通路部分を定植前に深耕することが褐変症の発生に及ぼす影響を調査する。	(成果)通路深耕を行っても慣行区と比べて褐変症および黒陥没症の発生に差はなく、芋重も同等だった。土壌貫入硬度を調査したところ硬度は慣行区と同等だったことから、通路深耕の効果は判然としなかった。 (課題)終了
4 環境に配慮した施肥法の開発			
(1) ラッキョウにおける特別栽培の検討	砂丘地農業研究センター・西園ほ場	西園ほ場2a	「大栄1号」において特別栽培法について検討する。
(2) ラッキョウ畑における窒素溶脱量の測定	砂丘地農業研究センターほ場	2.4a	ラッキョウにおける、施肥時期と窒素流出量について検討し、最適な施肥法を検討する。
			(成果)特別栽培施肥区の収量は慣行施肥区と同程度だった。病害はいずれの区も少発生で差がなかったが害虫は処理区により差があり、特別栽培防除体系は薬剤散布を行わない春期に慣行防除体系より被害が多かった。 (課題)継続調査が必要。
			(成果)収量面から、初期の肥料は必要ないと考えられた。9・10月増肥により、収量の増加が期待できるが、流出量が増加した。 (課題)継続調査が必要。

(令和3年12月31日現在)

事業名	(単)「輝太郎」を核としたカキ産地力強化に向けた栽培技術の確立		担当室別	河原試験地	
実施計画期間	令和元年度 ～ 5年度		(予算額) 支出済額	(1,080,000円) 289,589円	
試験研究 調査の目的	試験研究調 査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
輝太郎生産安定のための技術開発	河原試験地 本場	輝太郎 河原試験地若木 63樹	1後期生理落果の実態を調査する 2輝太郎に適した施肥体系を検討する	(成果) 1試験地の後期生理落果は約7%(前年19%)と少なく、霜害を受けた水田ほ場でやや多い傾向であった。 2元肥を削除し同量を春に施用した区は、慣行の元肥区と元肥を削除し半量を春に施用した区と比べ、葉色値が高い傾向で汚損果、条紋、軟果が多くなる傾向がみられたが、収穫時期に差は認められなかった。 (課題) 1生理落果の経年変動調査 2輝太郎に適した施肥体系の確立	
輝太郎果実品質向上のための技術開発	河原試験地	輝太郎 河原試験地 若木20樹 ポット樹8樹	1全面マルチ(雨水遮断)及び環状剥皮の効果を確認する 2出荷時期前進化対策を検討する 3外観向上対策を検討する	(成果) 1環状剥皮処理により、熟期促進・生理落果軽減効果が認められた。本年は全体に汚損・裂皮の発生が少ない年で処理区の違いは確認できなかった。 2フイロン乳剤処理により熟期が促進する効果が見られた。処理区では葉が垂れ下がって果実にかぶさる症状がみられた。 3摘葉処理により汚損が少なくなる傾向がみられたが、早期摘葉や多く摘むと果重、糖度が低くなる傾向がみられた。 (課題) 1全面マルチ・環状剥皮効果確認の継続 2フイロン乳剤及びハウス栽培による熟期・果実品質への影響の確認 3果重・糖度等へ影響が少ない摘葉方法の確立	
既存品種の生産安定	河原試験地	西条 河原試験地 成木35樹 富有 河原試験地 成木11樹 花御所 河原試験地 若木6樹	1西条に適した施肥体系を検討する 2富有に適した施肥体系を検討する 3花御所の内部黒変果軽減対策を検討する	(成果) 1西条は4月に霜害を受けて着果がほとんどなく、施肥効果の確認ができなかった。 2富有で施肥方法の違いにより、春肥区で遅れ花率が高かったが、果実品質やへたすきの発生及び収穫時に差はみられなかった。 3花御所に石灰質資材を散肥することにより、内部黒変果が減少する可能性が示唆された。 (課題) 1西条・富有の施肥体系の確立 2花御所内部黒変果軽減対策の継続	
霜害樹の生産安定	河原試験地 (水田ほ場)	輝太郎 河原試験地 成木12樹 西条 河原試験地 成木12樹	1凍霜害樹の夏枝管理方法を検討する (輝太郎、西条) 2凍霜害樹の遅れ花の果実品質を確認する (輝太郎)	(成果) 1 本年4月に凍霜害を受けた樹で夏枝管理(捻枝、枝抜き)の違いが枝長、花芽への影響を調査したところ、輝太郎では差がみられなかったが、西条では無処理の枝が長くなり、せん定時に利用できる枝が少なくなった。西条では6月中旬以降の捻枝と枝抜き処理を行うと翌年の結果枝確保に有効と考えられた。 2 凍霜害を受けた輝太郎の着果数を確保するため、遅れ花を着果させて果実品質を確認したところ、遅れ花は変形果が多く発生する傾向がみられた。 (課題) 1 凍霜害樹で行った夏枝管理の違いによる翌年の着果数、果実品質確認 2 遅れ花調査は終了	

(令和3年12月31日現在)

事業名	(単)中山間地園芸作物の安定栽培技術の確立		担当室別	日南試験地	
実施計画期間	令和元年度～令和5年度		(予算額) 支出済額	(2,134,000円) 1,584,650円	
試験研究 調査の目的	試験研究調 査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
トマト‘りんか409’ の栽培特性に対応 したかん水施肥基 準を策定し、高品 質安定多収の実現 を図る	日南試験地	ハウス 8.6a	(1)生育ステージに応 じたかん水・施肥技術 の検討 ・散水チューブ ・点滴チューブ (2)クロマルハナバチ 利用による省力化 (3)微弱パルスLED光 照射がトマトの生育お よび収量に及ぼす影 響 (4)遮熱資材とフル メット液剤による裂果 対策	【成果】 (1) ・散水チューブで慣行施肥、7月増肥、全期増肥の3区で比 較を行った結果、全期増肥区では茎径が太く推移したが、 後半の草勢低下の傾向は慣行と変わらなかった。 ・点滴チューブで慣行施肥と減肥区の2区で比較を行った結 果、減肥区は合計N量は少ないにも関わらず、慣行区よりも 有意に増収した。基肥の有無が要因と推察された。 (2) ・クロマルハナバチ利用によって、トマトーン散布時間の短 縮され、収量も同等であることが確認された。しかし、クロマ ルハナバチ区は小玉傾向であり、また、単棟ハウスの利用 では、防虫ネットやクロマルハナバチの購入コストがかさむ ため、慣行区よりも費用対効果は劣るものだった。 (3) ・微弱パルスLED光照射による生育差、収量差は認められ なかった。 (4)遮熱資材とフルメット液剤による裂果対策 ・遮熱資材「ワリフ明瞭30」を梅雨明けから8月末まで展張す ることで有意に裂果が減少した。しかし、その反面空洞果が 多発した。フルメット液剤は遮熱資材の効果に比べると劣化 抑制効果は劣った。 【課題】 ・慣行の施肥基準と試験施肥体系の収量生育比較 ・遮熱資材の天候に応じた開閉による果実品質向上 ・高品質安定多収品種の検索(予備)	
白ネギ省力化栽培 技術の確立と作型 前進化		ほ場 16a	(1)越冬大苗疎植栽 培による7月どり作型 の確立 ・チェーンポット直置き 育苗による育苗期間 短縮 (2)高品質多収技術 の検討 ・品種特性の比較	(1) ・LP303-10(ロングピッチペーパーポット)を用い、1月播種 で30本/m程度までの栽植密度の増加は可能であると考え られた。20本/mの栽植密度では、慣行施肥体系では肥料 過多となっている可能性があり、減肥の必要があると考えら れた。 (2) ・盆前どり作型は‘MKS-N43’が有望と考えられた。9月ど りは‘源翠’、‘秋の宝山’、‘名月一文字’が有望と考えら れた。秋冬どりは‘大河の轟き’、‘秋の宝山’が有望だった。 【課題】 ・越冬大苗疎植栽培の7月どり作型の確立 ・各作型の有望品種の選定 ・有望品種に適した栽培方法の確立 ・高温期の施肥方法の検討	
ブロッコリー一作期 拡大試験		ほ場 16a	(1)初夏どり作型 ・初夏どり適品種の選 定 ・低温期の生育促進技 術の評価 (2)高温期どり作型 ・9月中旬収穫の適品 種選定 ・高温期の花蕾腐敗症 状対策の評価 (3)秋冬どり作型 ・10月どりの適品種選 定	【成果】 (1) ・‘恵麟’、‘とくみのり’、‘ファイター’が有望と考えられた。 ・肥料の変更による収穫日や品質の目立った差は認められ なかった。 ・苗の加温を行うことで、花蕾品質の向上が図られる可能性 が示唆されたが、ホットマルチでの簡易的な保温程度では 品質向上は困難であると考えられた。 (2) ・秋雨前線の影響による湿害で根腐れが発生し、収穫に至 らなかった。 (3) ・‘SK9-099’が有望と考えられた。 【課題】 ・品質評価(継続調査)	

<p>新規品目の栽培技術確立</p>	<p>ハウス 4a ほ場 12a</p>	<p>(1)アスパラガスの栽培技術の確立 ・拍動かん水装置による液肥栽培の確認 (2)トルコギキョウの9～10月収穫作型の適品種選定 ・播種時期の検討 ・適品種の検討 ・育苗資材の検討 (3)少量多品目生産を支える品目の栽培技術確立 ・夏秋ピーマン新品種の栽培特性確認</p>	<p>【成果】 (1)アスパラガス ・拍動かん水による増収効果は認められたが、かん水量の設定に再検討を要した。 (2)トルコギキョウ ・5月初めに播種を行うことで安定した栽培が可能と考えられた。 ・‘ハピネスホワイト(白)’、‘コレゾブルー(紫)’、‘コレゾライトピンク(ピンク)’、‘ミンクルージュ(ピンク覆輪)’が有望と考えられた。紫覆輪は再検討を要した。 ・ペーパーポット稚苗定植は活着が悪く、再検討を要した。 (3)ピーマン ・バイオステミュラント資材ライゾーの有無による有意差は認められなかった。新品種‘グッピー’を4番果まで摘果することで収量は増加したが、2番果摘果との有意差は無かった。 【課題】 ・アスパラガスの拍動かん水による増収効果の検証 ・トルコギキョウの有望品種の選定 ・フラワーネットの位置が収量と生育へ及ぼす影響の調査</p>
--------------------	--------------------------	--	---

○意見、要望等

- | | |
|--------------------|------|
| (1) 業務に関する意見・要望等 | 特になし |
| (2) 監査委員事務局に対する要望等 | 特になし |